

つまずきを読み解く視点 ～冰山モデル(1)～

兵庫県立芦屋特別支援学校

平成31年 2月20日(水)

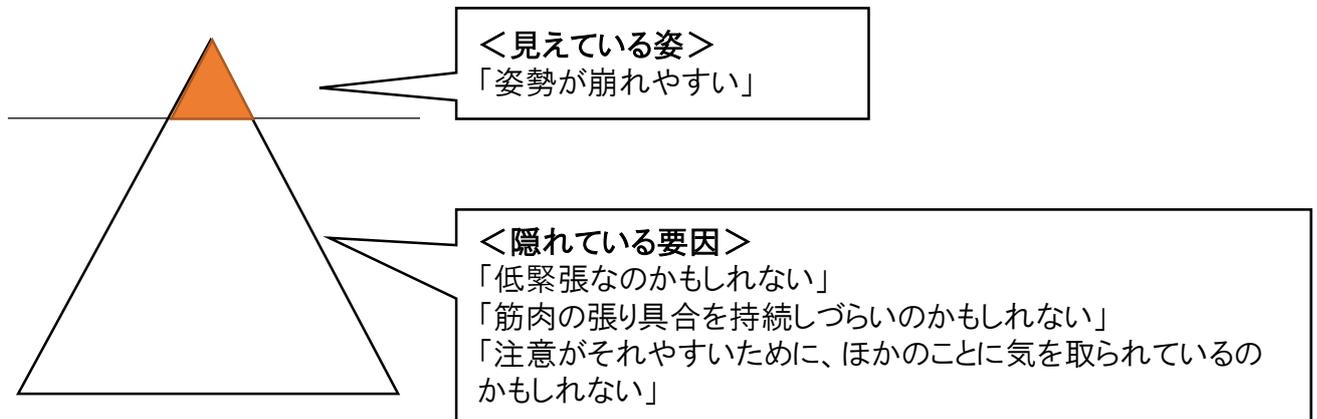
地支セン通信 No. 22

～冰山モデルという言葉聞いたことがありますか？～

「なぜそのつまずき生まれるのか。」「～かもしれない。」という発想こそが、子どもを決めつけることなく、子どもの行動をよりの確に理解するための第一歩です。子どもの行動には必ず、目に見えないつまずきが隠れています。

冰山モデル：冰山は水面に見えている姿はごく一部で、多くは水面下に隠れている。この姿をモデルに、表に現れる行動の問題やつまずきの背景要因を推測しようとする考え方

例えば、「姿勢が崩れやすい」姿を見て、「だらしない」「態度が悪い」「ちゃんとしろ」「まじめにやれ」と思うことはありませんか？それを冰山モデルにあてはめて見ていくと・・・



隠れている要因からこんなアプローチができるのでは・・・

▶姿勢がよい状態であることをフィードバック

姿勢が崩れやすい子が正しい姿勢でいる場面は、大きなエネルギーを使っている時だと考え、当たり前だとは思わず、「いいね。」「ステキだね。」などと伝える。

▶「合法的な離席」

友だちのノートを見て回る、黒板に教材を貼る係をするなどの場面を設定する。

▶姿勢のリセット

姿勢が崩れてきた時を子どものサインとして捉え、クラス全員で立ったり背伸びをしたりする。

▶情報を整理

黒板まわりを整理し、不必要な掲示物を取り除いたり、気付いてほしい部分には目印を付けたりする。

▶教材提示の仕方を工夫

注目して欲しい教材に、隠しておく部分をあえてつくったり、小出しにしたりする。



どうですか？

子どもを決めつけずに、「なぜ」？と思うことで、見方が変わり、様々なアプローチ方法を見つけ出すことができます。このように洞察的に子どもを見る必要があります。

参考文献 「発達のつまずきから読み解く支援アプローチ」 川上康則

参考文献および図の引用 「通常学級でできる発達障害のある子の学習支援」 内山登紀夫 監修 川上康則 編